

損 害 状 況 確 認 一 覧 表

レコード
の開始行

工事番号	分割協議回数	家屋番号	物件所在地	構造	基礎	用途	建築年月日	増改築有無	調査床面積(㎡)	損害の概要	損害見積額(円)	修復対象物	休業・移転日数(日)	備考	路線・人孔名	官民境界までの距離①(m)	側線からの距離②(m)	掘削深③(m)	地質	沈下最大(mm)
0414-6123	第一回	1	新宿区西新宿一丁目1 番1号	木造二階建	布基礎	住宅	昭和○年○月○日	×	61.51	土間破損、基礎クラック等	300,000	建物			A路線	0.50	1.00	3.00	細砂	0
															B路線	1.00	1.25	2.50	シルト	0
															C人孔	1.50	1.00	2.45	シルト	0
0414-6123	第一回	2	新宿区西新宿一丁目1番2号	S造 2 階建	杭基礎	事務所	平成○年○月○日	×	100.10	外壁亀裂、土間破損	200,000	工作物			A路線	0.50	1.00	3.10	細砂	0
															D人孔	1.40	1.30	3.20	細砂	0
0414-6123	第一回	3	新宿区西新宿一丁目2番1号	木造 2 階建	ベタ基礎	住宅	昭和○年○月○日	○	150.00	本補修済	0				E路線	0.70	1.85	2.50	シルト	0
0414-6123	第一回	4-2	新宿区西新宿一丁目2番3号	木造平屋	ベタ基礎	住宅	昭和○年○月○日	×	0.00	タイル破損	80,000	工作物			E路線	0.80	1.85	2.60	シルト	0
															F人孔	0.50	1.00	3.50	細砂	0
0414-6123	第一回	7-1	新宿区西新宿二丁目2番1号	S造 3 階建	杭基礎	住宅	昭和○年○月○日	○	0.00	損害なし	0				A路線	0.50	1.50	3.20	細砂	0
															D人孔	2.00	1.80	3.20	細砂	0
0414-6123	第一回	7-2	新宿区西新宿二丁目2番1号	S造 3 階建	杭基礎	店舗	昭和○年○月○日	×	55.00	建具開閉不良	100,000	内装			A路線	0.50	1.50	3.20	細砂	0
															D人孔	2.00	1.80	3.20	細砂	0
0414-6123	第一回	8	新宿区西新宿二丁目2番2号	RC造 3 階建	杭基礎	共同住宅	平成○年○月○日	×	0.00	損害なし	0				E路線	0.50	1.00	2.40	シルト	0

- (注) 1
 損害状況確認一覧表は、家屋等の事後調査を実施した物件について記載すること。
- 2
 表題「損害状況確認一覧表」は、セルに直接入力せず、テキストボックスで表記すること。また、各セル内の文字は改行をしないこと。折り返して全体を表示すること。
- 3
 家屋等に複数の路線や人孔が接する場合は、行を追加し「路線・人孔名」～「沈下最大 (mm)」までの項目に必要な情報を入力する。（内面被覆工法や掘削を伴わない改造人孔については入力不要。）
 なお、追加した行において「レコードの開始行」～「備考」までの欄は空欄とする。（セル結合不可。家屋番号等の物件情報を記入している行の内容をコピーして貼り付けない。）
- 4
 以下の内容に注意して各項目を記入する。

「レコードの開始行」

家屋番号等の物件情報をを記入する行に「*（半角アスタリスク）」を記入する。

「用途」

住宅、店舗、店舗併用住宅、共同住宅等、端的な単語で記入する。

「損害の概要」

受注者の本補修により損害見積額が発生しない場合、「本補修済」と記入する。

「損害見積額」

損害なしの場合は、損害見積額は0（ゼロ）と表記する。

「修復対象物」

「建物・建物(揚屋)・工作物・内装・墓石」のいずれかを記入する。（手引：P32）参照。ただし、本補修済の損害については記入しない。

「休業・移転日数」

休業又は移転が発生する場合、その日数を記載する。（必要に応じ、引越し等の準備期間を含んだ日数とすることができる。）工程表についても添付すること。

「備考」

全体・部分揚屋工法で算定している場合や、複合処理・競合処理の場合等にその旨記入する。

「官民境界までの距離①」

施工説明書で図示した位置について、家屋等ごとに数値を記入する。

「側線からの距離②」

同上

「掘削深③」

同上

「地質」

開削工事の場合は掘削床付の地質を記入する。（立杭工事含む）シールド・推進工事の場合は、掘削部分の地質を記入する。